

平成25年度 事務事業マネジメントシート

事業名	つばさ学園療育相談事業			会計	款	項	目	大	事	小
				01	03	02	07	02		54
政策	04	4節	誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	障害者支援課					
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり		主管課長	小西 和典					

事務事業の目的・内容

事業目的	対象	0歳から18歳未満の児童とその保護者	意図	心身の成長や発達に心配のある乳幼児及び児童に対し、専門的かつ総合的な相談が行える相談室を開設し、障害児の早期発見、早期療育に努める。
事業内容	相談、面接、診察、指導訓練、総合的な相談などを通して、効果的な療育支援を行い社会的自立と地域生活に向けて支援をする。			
事業開始から現在までの状況変化	心身の成長や発達に心配のある児童の相談を他機関と情報の一元化がなされていなかった為、医師会の協力を得、療育相談事業を開始した。医師の診断、心理士や言語聴覚士による検査を実施し、療育支援会議を通し関係機関（教育委員会、保育所、保健センター等）との連携を図っている。また、千葉県障害児（者）療育支援事業による保育所等巡回指導も実施している。			

事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	相談、診察件数		514	576	465	件	
	面接・指導訓練件数	1,014	1,111	1,069	件		
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 総合的な相談より、障害の早期発見・早期支援に努めている。 25年度の新規相談件数は136件であり、昨年度(115件)より多いが、全体として相談件数が減少しているのは、相談員のインテーク及び療育支援方針などの説明を丁寧に行うことにより、相談者の理解が得られ、2回、3回と同じ方の相談が減少したためと考える。
事務事業のコスト		平成23年度	平成24年度	平成25年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		21,654,031	23,090,867	28,889,961			
事業費(b)(円)		6,123,231	8,033,427	7,928,961			
うち一般財源		4,055,304					
職員給与費(c)(円)		15,530,800	15,057,440	20,961,000			
人役・職員(人)		2.05	2.00	3.00			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)			0.64				
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 < 主管課長記入 >

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

今年度(H25)の改善計画	児童発達支援センター化に向けて、相談支援専門員研修に参加させる。相談員のスキルアップをする。	取り組みの課題	平成27年4月より、相談支援事業・保育所等訪問支援事業開始に向けて、情報収集及び内部勉強会の開催が必要になる。
今年度(H25)に実施した取り組み	相談支援専門員の研修（講義・演習）を受講させた。流山市地域自立支援協議会相談支援部会に参加し、情報の共有を促した。	今後の改善計画	相談支援事業における担当者会議を設ける必要がある。現在の療育相談室が行っている療育支援会議の位置づけを見直す必要がある。